

## 幼稚園・保育所における運動遊びと その指導に関する考察（2） ——実習時と就職後の調査から——

宮 下 恒 子

### 目的

保育の現場における運動や身体活動による遊びの指導は、子どもの心身の成長・発達に直接的な影響及ぼすものである。幼児の健やかな成長を助ける幼稚園教諭、保育士は何よりも、自らの心身が健康であり子どもたちと一緒に遊べる体力や遊びの技能を持っていなくてはならない。しかし、最近の保育者を目指す学生の中には、運動や遊びの苦手な学生や、体力の無さを感じる学生も見受けられ、将来の保育者として不安を抱く面も感じられる。

幼児体育の授業では、多くの運動遊びや表現遊びを、学生自ら実践してその指導方法を学んでいくが、一つの種目に十分な時間をかけて学習することができないので、不得意な種目や指導の難しい種目などについての不安が残るのも事実である。

そこで、本研究では、昨年の研究<sup>1)</sup>に引き続き、学生が実習時に実施した運動遊びの指導実態と就職してからの指導実態について比較検討し、幼児体育における運動遊びの指導に関する問題点を究明し、今後の授業やリカレント教育に役立てることを目的とする。

### 方法

幼児教育科の学生が在学中ならびに卒業後に保育の中で関わった運動遊び、すなわち実習時、および卒業後に実施した運動遊びの指導や問題点について追跡調査を行った。

#### 調査内容

- 1 運動や遊びの関わり（指導した遊び 選んだ理由）
- 2 指導の得意な遊びと不得意な遊び、その理由
- 3 指導のやり易い遊びと難しい遊び、その理由
- 4 ダンスや表現遊びの関わり（指導の有無、指導した遊び、しなかった理由）
- 5 保育者となってから、研修を受けたい講座

#### 調査期間及び調査対象者

対象： 2004年度入学の学生188名

調査1： 2005年6月（2年次）、3週間の幼稚園実習後（回答者188名）

調査2： 2005年9月、10日間の保育実習後（回答者165名）

調査3： 2006年12月、就職してから約半年後（回答者45名回答率29%）

## 結果と考察

### 1. 運動遊びの関わりについて

図1は、在学中の幼稚園実習時及び保育所実習時に指導した運動遊びである。幼稚園、保育所実習とも、鬼ごっこが最も多かった。次に多い種目は幼稚園実習時では体操であり、保育所実習ではかけっこやなわとびなどあった。

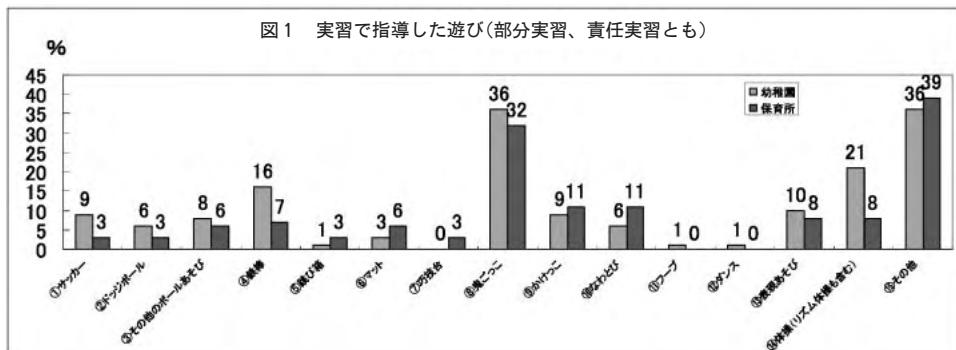


図2は、保育者になってから指導した運動遊びである。鬼ごっこ、器械運動、リレーや競走、水遊び、ボール遊び、ゲームなど多くの種目が季節ごとに取り入れて指導している様子が伺える。

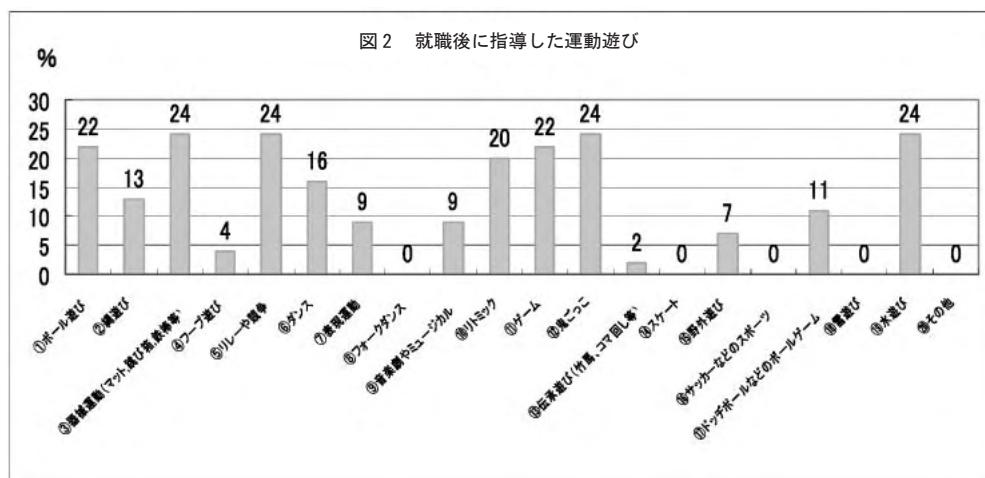
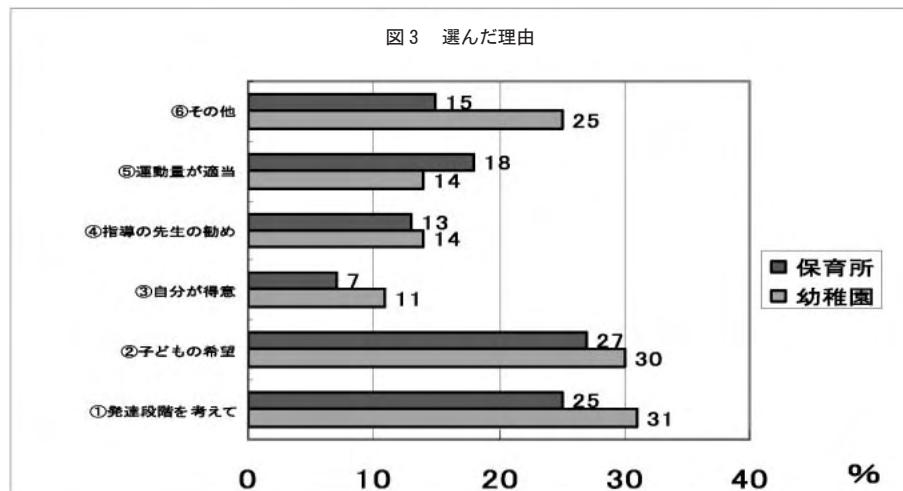


図3は、実習で指導した運動遊びを選んだ理由である。幼稚園実習、保育所実習共に「発達段階を考えて」、や「子どもの希望」が多かった。実習では限られた季節、日数の中で保育内容を選択し、実習がうまくできることを考えて、子どもの希望を多く取り入れているようであったが、保育者となってからは、子どもの発達や教育的意義にふさわしい内容を幅広く取り入れて様子が伺える。



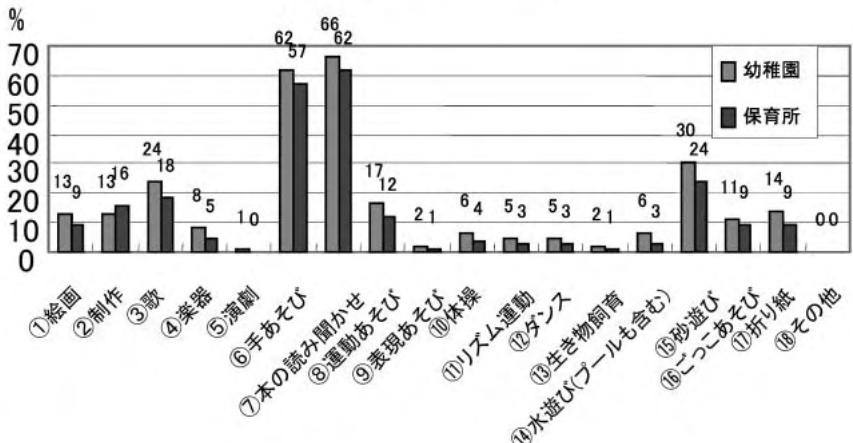
その他の理由	<幼稚園実習時>	その他の理由	<保育所実習時>
■ 楽しそう	5	■ 活動の一環として	1
■ 日課に取り入れている	4	■ 行事に合せて	1
■ 喜びそう	2	■ 喜ぶから	1
■ 導入として	1	■ おもしろそうだから	1
■ 季節を考えて	2	■ 何をすればいいのかわからなかった	1
■ 子どもの顔を知るため	1	■ 雨の日なので身体を動かす機会をつくる	1
■ 活発だから	1	■ 子どもの可能性を知る	1
■ はやっているから	1		
■ 発散させるため	1		
■ 保育内容を考慮して	1		

\* 数字は人数

## 2. 指導の得意な遊びと不得意な遊び

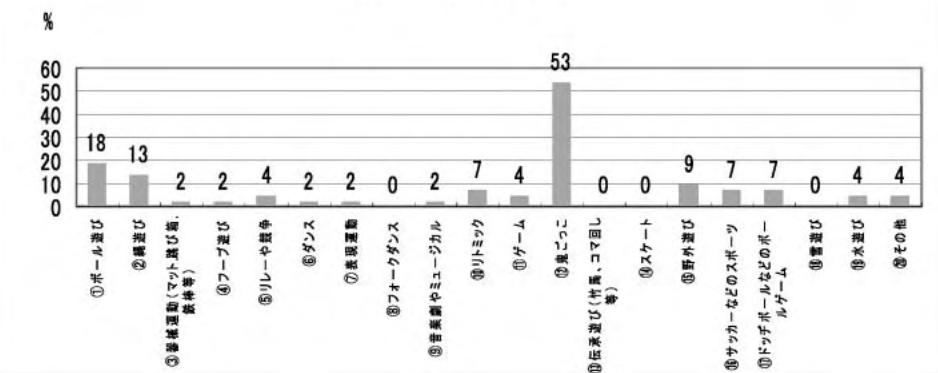
図4は、実習時に指導した得意な活動である。図5は、保育者になってから得意とする運動遊びである。図4から幼稚園、保育所実習のどちらの実習時も本の読み聞かせ、手遊びが断然多かった。運動遊びを得意とする人は少なく、幼稚園実習時では17%、保育所実習時では12%であった。さらに、体操やダンス、表現遊びなどは非常に少ない。得意な理由では、「自分が好きだから」、「多くの経験をしているから」という理由が多く、こうした理由は指導の自信に繋がっているものと思われる。しかし図5から、保育者になってから運動遊びの中で得意なものは、鬼ごっこが最も多く53%の人が得意としている。次いでボール遊びであり18%の人が得意としている。これらの活動は、子どもが好きな活動であり、運動量が多く、子どもたちが自発的に関わることのできる活動であるので、指導力が身に付けば指導し易く、得意な活動になるであろう。

図4 指導の得意なもの



指導が得意な理由	<幼稚園実習時>	<保育園実習時>
■ 経験が多いから	63	■ 経験が多いから 16
■ 自分が好きだから	83	■ 自分が好きだから 54
■ 自分が得意だから	24	■ 自分が得意だから 10
■ 身体を動かすのが好きだから	14	■ 自分も楽しめる 9
■ 説明がしやすい	6	■ 身体を動かすのが好きだから 5
■ 自信を持って教えられる	7	■ 説明がしやすい 4
■ 子どもと一緒にできていると感じられる	7	■ 自信を持って教えられる 3
■ 説明しやすい	6	■ 子どもと一緒に楽しくできる 9
■ やりやすかった	6	■ 子どもが楽しんでくれる 2
■ 子どもをひきつけやすい	6	■ やりやすかった 6
* 数字は人数		■ 子どもの反応がよい 13
		■ うまくできた 5
		■ 教えやすい 4
		■ 自信がついた 3
		■ たくさんの中っている 3
		■ その他(教えるのが好き、子どもと接している、子どもとのやり取りが得意、演じる、感情をこめてする、止まりながら進められる)

図5 得意な遊び(就職後)



### 3. 遊び指導(すべての活動を含む)の得意不得意について

実習の際に「得意」「不得意」とした場合、その理由を自由記述によって回答を求めた。それらを表1の分類方法によって表2、3に記号で示し纏めた。

表1 得意不得意、指導の難しさなどの要因別分類方法

分類カテゴリー	要因	内容	記号
SELF FACTOR	自己要因	子どもの発達理解	S 1
		自分の技能、指導力	S 2
		好き嫌い 得意不得意	S 3
		体力・気力	S 4
		心的要因	S 5
ENVIRONMENT	環境要因	場所、時間、機会	E N
CHILDREN	幼児要因	子どもの立場	C
EDUCASION	教育要因	養成校での教育	E D

表2 指導が得意の理由

理由(幼稚園)	人	分類	理由(保育所)	人	分類
経験が多いから	63	S 2	経験が多いから	16	S 2
自分が好きだから	83	S 3	自分が好きだから	54	S 3
自分が得意だから	24	S 3	自分が得意だから	10	S 3
身体を動かすのが好きだから	14	S 3	自分も楽しめる	9	S 3
説明がしやすい	6	S 2	身体を動かすのが好きだから	5	S 3
自信を持って教えられる	7	S 2	説明がしやすい	4	S 2
子どもと一緒にできていると感じられる	7	S 2	自信を持って教えられる	3	S 2
説明しやすい	6	S 2	子どもと一緒に楽しくできる	9	S 2
やりやすかった	6	S 2	子どもが楽しんでくれる	2	S 1
子どもをひきつけやすい	6	S 2	やりやすかった	6	S 2
			子どもの反応がよい	13	S 1
			うまくできた	5	S 2
			教えやすい	4	S 2
			自信がついた	3	S 2
			たくさんの知っている	3	S 2
			その他(教えるのが好き、子どもと接している、子どもとのやり取りが得意、演じる、感情をこめてする、止まりながら進められる)		

表3 指導が不得意の理由

理由(幼稚園)	人	分類	理由(保育所)		
苦手(運動、ピアノ、歌、)ぶきっちょ	47	S2	苦手(運動、ピアノ、)ぶきっちょ、不得意	44	S3
やったことがない、経験が少ない	15	ED	やったことがない、経験が少ない	7	ED
説明が難しい	29	S1	説明が難しい	15	S2
以前うまくできなかった	7	S2	以前うまくできなかった	3	S2
動物や、虫が嫌い	7	S3	動物や、虫が嫌い	2	S3
表現や演技が下手、なりきれない	8	S2	表現や演技が下手、なりきれない	3	S2
知識が乏しい	3	S2	知識が乏しい	5	S2
指導の仕方がわからない	5	S2	指導の仕方がわからない、指導が難しい	10	S2
難しい	3	S2	難しい	11	S2
子どもの様子がつかめない、掌握できない	9	S2	子どもの様子がつかめない、一斉は苦手	3	S2
覚えられない、やり方がわからない	7	S2	覚えられない、やり方がわからない	7	S2
言葉かけが難しい	6	S2	嫌い	2	S3
嫌い	3	S3	ピアノが苦手	12	S3
ピアノを弾きながら子どもを見ることができない	2	S2	危険を伴う	1	S2 S5
			疲れる、身体が硬い	2	S5
			うまくできなかった、うまく表現できなかった	4	S2
			課題の選び方のミス	1	S1
			まとめるのが難しい	3	S2
			子どもの個人差がわかる	2	S1

表2、3より指導の得意の理由では、経験が多い、自分が好き、自分が得意など自己要因に関するものが多い。不得意の理由も、苦手や不得意など自己要因が多いが、説明が難しい、指導の仕方が難しいなどの指導方法の未熟さによる自己要因も多く見られた。

#### 4. 運動遊びの指導の難しさについて

表4、5は実習時の運動遊びの指導で難しかった遊びとその理由を、前述の表1の分類方法によって分類し纏めたものである。また、図6は、保育者となって指導する際に指導の易しい遊びと難しい遊びを示したものである。

図6 指導の易しい遊び・難しい遊び

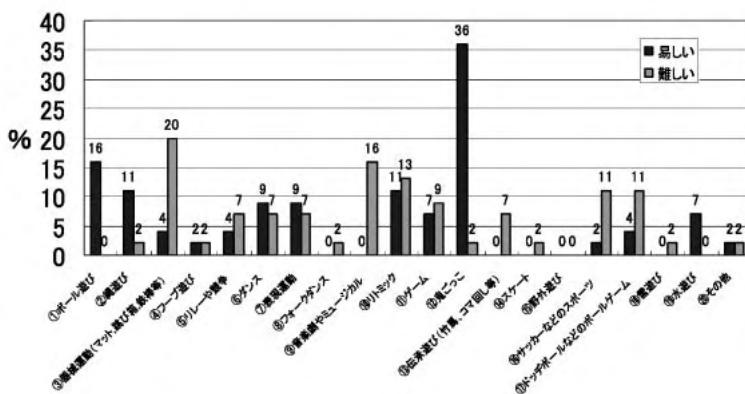


表4 運動あそびの指導で難しかったあそびとその理由（幼稚園実習の場合）

分類	固定遊具	分類
鬼ごっこ (色鬼、氷鬼、かくれんぼ、けいどろ、しっぽとりなど)		
ルールがわからない子がいる 3件	C S 2	鉄棒：指導が難しい、 自分がお手本をできない、 子どもがどこまでできるかわからない
		S 2 S 2 S 1
ルールを守らない	C	スペリ台：安全のための注意の与え方が難しい
子どもによってルールが違う 2件	S 2	うんてい：発達段階にあった指導が難しい
子どもの暑さのため集中力が続かない、 鬼が捕まえられない	E N S 2 S 2	歌遊び
異年齢だと体力差が出る	C S 1	あぶくたつた：個々に勝手に遊びだす
ゲーム（フルーツバスケット4、ネコとねずみ1、ハシカチ落とし1、ジャンケン列車1、室内ゲームなど）		リズム遊び：動きが難しすぎた
ルールが理解できない子がいる、 ルールを説明するのが難しい	C S 2 S 2	砂遊び
みんなが鬼、ネコになりたがる	C	みんながやろうとしない
円になるのが難しい	S 2	どう関わっていいのかわからない
ルールの説明が難しい	S 2	その他
ドッジボール		おしくらまんじゅう：3歳児には説明が難しかった
ルールが理解できない	S 2	水遊び：流れがわからなかった
勝手にやる	C	自由遊び：遊びの幅をひろげられなかった
子どもがボールに慣れていなかった	C	なわとび：発展させても、上手に遊べない 楽しめなかった
ごっこ遊び		ブロック：子どもの創造力についていけない
アニメの主人公やストーリーがわからなかった	S 2	体操：集合のさせ方か難しかった
滑り台でおままごとをして泥だらけになった	S 2	製作：はさみの使い方の指導が難しい
かけっこ		ピアニア：子どもが飽きてくる
ヨーイ・ドンが理解できない	C S 1	
チーム分けが難しい	C S 2	

表5 運動あそびの指導で難しかったあそびとその理由（保育所実習の場合）

分類	固定遊具	
鬼ごっこ（かくれんぼ、氷鬼、けいどろ、しっぽとりなど）		
ルールがわからない子がいる	C S 2	鉄棒：常に安全に注意が必要、 自分がお手本をできない、 言葉かけが難しい 指導方法が難しい、 腕や手首の力が弱い、
		S 5 S 2 S 2 S 2 S 2
ルールを守らず、ただの鬼ごっこになる	C S 2	スペリ台：危険性がわからない、 逆さまから登る子がいる
		S 2 C S 2
ゲーム（椅子とり、伝言ゲーム、ジャンケン列車1、だるまさんが転んだ、落ちた落ちたなど）		跳び箱：どう指導してよいかわからない
子どもの名前がわからない	S 2	うんてい：発達段階にあった指導が難しい
場所が狭かった	E N	歌遊び
約束事が多かった 2件	E N S 2	知らない歌に興味を示さない
歌うリズムが難しかった	S 2	リズム遊び：動きが難しすぎた、どのように したら歌いやすいかわからない
年齢が小さくルールが理解できない	S 1	その他
椅子の取り合いで転ぶ子が多くいた	S 2	玉いれ：ルールの指導が難しい
サッカー・ドッジボール・ボールゲーム		自由遊び：遊びの幅をひろげられなかった
したことがない	E D	なわとび：上手に遊べない 見本を見せなければ伝わらない
個人差が大きい	S 2	プール：安全性に気遣ってばかりになる
ままごと、ごっこ遊び		タイヤ：そばに小さい子が居て危険だった
子どもなりのこだわりがある	C	ダンス：不得意
かけっこ・リレー		組体操：注意点が多い
ヨーイ・ドンが理解できない	C S 2	ブロック：子どもだけで出来てしまう
順番に行くのが理解されなかった	C S 2	S 2

図8より、保育者となってから指導の易しい運動遊びは鬼ごっこが最も多く36%の回答があった。次いでボール遊びが16%であった。一方、難しいとするものは、器械運動であり(20%)、次いで音楽劇やミュージカル(16%)であったが、難しいと思うものは、その他にも分散している。在学中の実習時に指導が難しいとした理由には、指導技術が未熟なためという自己要因と子どもの考え方や動き、子どもの気持ちをうまく汲み取れないという子どもへの理解不足に起因する自己要因などが見られた。保育者になってから、器械運動やダンス系の指導が難しいという人が多いことは、それらの技能が自分に十分に身に付いていないことから、経験の浅い保育者にとって、指導のポイントが解らないことや指導への不安などに繋がっていると思われる。

## 5. ダンスや表現遊びの関わり

幼児に運動遊びを指導する際、表現遊びやダンスが欠かせないものである<sup>2)</sup>が、器械運動と同様に不得意とする学生が多くいる。筆者の研究<sup>3)</sup>から、保育を専攻する多くの学生が表現・ダンスの指導への不安を持っていることや、特に表現への自信のなさが明らかにされていた。そこで、実習や保育現場でダンスや表現遊びの指導や指導の際の難しさなどを分析することにした。

表6は、実習時のダンスや表現遊びの指導実態である。指導をしたという学生は少なく、大半の学生は指導をしていなかった。その理由はその機会や時間がなかったという物理的要因で示されているが、少ない責任実習や部分実習の時間内にダンスや表現の指導をする余裕はなかったようである。指導をしたという学生のその内容は、表8に示しているように、創作や表現よりはリズムダンスやリズム体操のような振り付けを覚えて教えるといったものがほとんどであった。

表6 ダンスや表現あそびの指導

	幼稚園実習時	保育所実習時
	%	%
①しない	85	88
②した	15	12
合計	100	100

表7 実習時にダンスや表現あそびの指導をしなかった理由

しなかった理由(幼稚園)	人数	分類	しなかった理由(保育所)	人数	分類
機会がなかった	17	EN	機会がなかった	14	EN
時間がなかった	6	EN	時間がなかった	7	EN
自分が苦手	1	S3	先生がしていた	3	EN
園でリトミックをやっていた	1	EN	園がしていない	2	EN
先生がリズム体操をしていた	1	EN	得意ではない	1	S3
指導の先生に言われなかった	1	EN	2歳児だったのでしなかった	1	S2
他のものを作りたかった	1	S3	場所がなかった	1	EN

表8 実習時のダンスや表現指導の内容

	幼稚園(人)	保育所(人)
朝の体操・ダンス	3(注1)	1(注6)
既成の体操・ダンス	8(注2)	1(注7)
歌に合わせて表現・振り付け	4(注3)	
リズムダンス・体操	3	3(注8)
創作・表現	3(注4)	
その他	2(注5)	10(注9)

- (注1) 既成の体操・ダンス……たこやきたいそう、アンパンマン体操、はとっぽ体操、殿様蛙出世小唄、蓋踊り、元気体操
- (注2) リズムダンス・体操……ジャンプ、ひよこの真似、にんにん忍
- (注3) 創作・表現……新聞紙を使って、お舟ごぎ、
- (注4) 歌に合わせて表現……動物のまね、セサミストリートの歌に振り付け
- (注5) その他……リトミック、親子体操
- (注6) 先生と体操
- (注7) アブラハムの子
- (注8) リトミック、太鼓おどり、手でリズム表現
- (注9) 動物ごっこ、くません、動物の真似、新聞紙で表現、ダンス、運動会のおどり

図7は保育者となってから身体表現の指導をしたか否かについて、図8は指導した内容についてである。図7、8から、84%の人が身体表現の指導をしていた。その内容で、最も多いものはお遊戯やダンスであり（76%）、次いで、リトミックや演劇などであった。実習時にはリズムダンスや既成のダンスが多かったが、保育者になってからも、表現よりは既成のダンス（お遊戯）やリズムダンスが多く、表現の指導は少ないことがわかる。

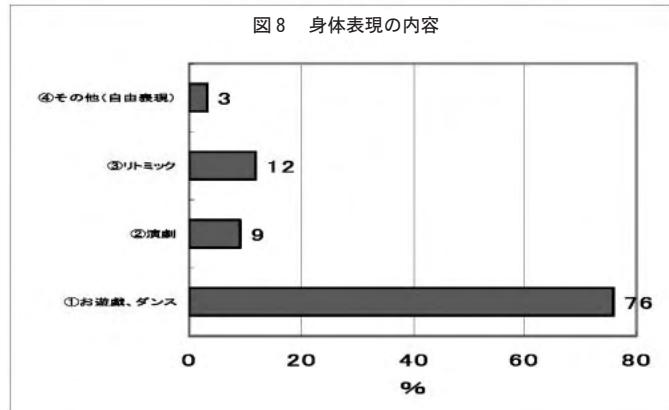
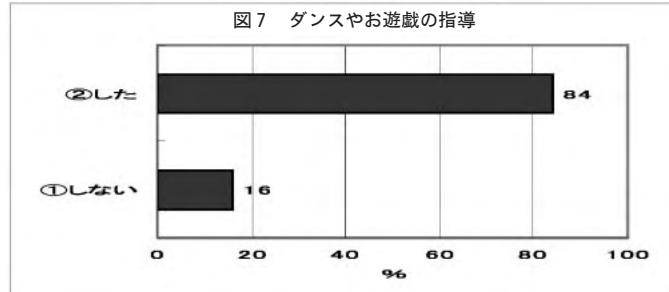


表9は実習時にダンスや表現を指導した人が指導で苦労をした点について纏めたものである。ほとんどが、自己要因であり、自分の技量不足や子どもの動かし方などの指導力の無さが顕著に表されている。

表9 実習時のダンスの指導で苦労した点

苦労をした点（幼稚園）	人数	分類	苦労をした点（保育所）	人数	分類
自分が覚えるのが大変	2	S2	友達同士のトラブル	1	C S2
子どもが覚えるのに時間がかった	1	S2	説明のしかた	1	S2
途中であきらめる子への対処の仕方	1	S2	ステップの踏み方	1	S2
参加しない子がいる	1	C S2	しない子がいる	1	C S2
子どもがまとまらない	1	S2	子どもたちが衝突しないように気をつける	1	S5
子どもにわかる忍法の表現が難しい	1	S2	振り付け	1	S2
表現が難しい	1	S2	見本を見せること	1	S2
動きながらの説明が難しい	1	S2	覚えるのに苦労	1	S2
声を出すことが大変	1	S2	子どもが思うように動かない	1	C S2
わかり易い説明	1	S2	自分が動きながら子どもに伝えること	1	S2
リズムに合せて動ける言葉かけが難しい	1	S2	リズムの取り方	1	S2
歌に合せて身体を動かすことが難しい	1	S2	子どもと左右反対に動く	1	S2
子どもと反対向きで行うこと	1	S2	背筋を伸ばして正しい姿勢をする	1	S2
踊りに夢中になり途中で歌わなくなってしまった	1	C S2			
自由表現ができない子がいる	1	C S2			
リズムにのれない	1	S2			

## 6. 保育者になってからの運動遊びの指導

図9は、保育者になって、運動遊びの指導は他の遊びに比べて取り組みやすいか否かについて示したものである。図9より、易しいとの回答が76%と多く、難しいは7%であった。また、運動遊びの指導に対する不安はあるか否かについては図10に示した。図10より、少しあるは49%、多いにあるは18%と多く、指導は他の遊びに比べて易しい反面、指導への不安は大きいものと思われる。

図9 運動遊びの指導

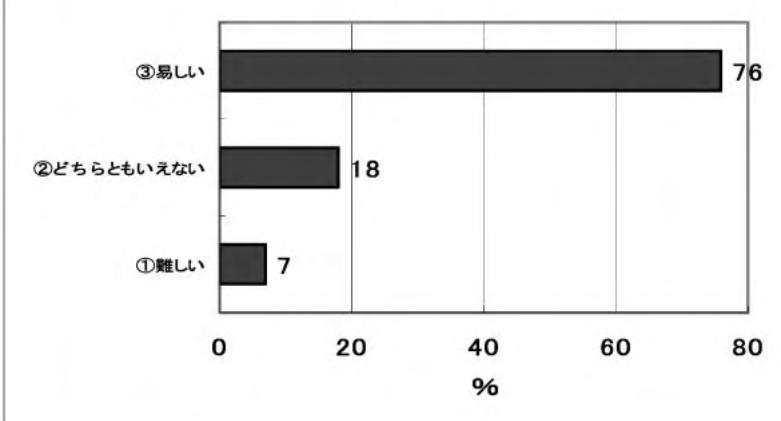
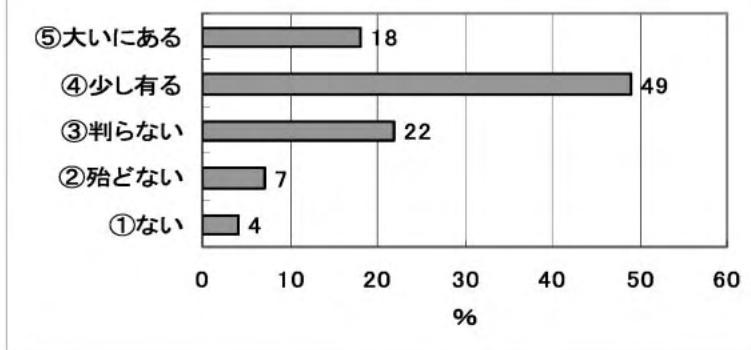


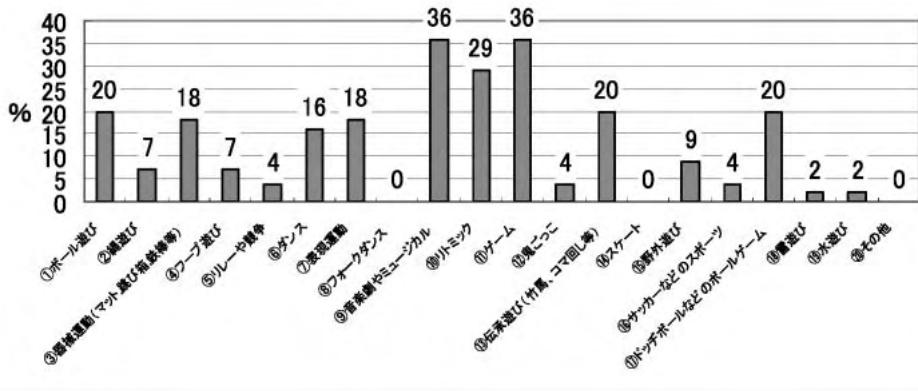
図10 運動遊びの指導不安



## 7. 保育者となってから、研修を受けたい講座

図11は、今後研修等で研修を受けたい運動遊びの講座についての回答である。多いものは、ミュージカルやゲーム、リトミック、伝承遊び、ボールゲーム、ボール遊び、器械運動、表現運動などであり、子ども自身が中心になって自発的に動く遊びよりは、指導技術が必要なもの、運動技能が必要とされる種目の研修を必要としているようである。多くの講座の研修を希望していることは、まだ新米保育者であり、十分な技能が身に付いているとは自覚しておらず、研鑽を積み立派な保育者となろうとする意気込みが感じられる。

図11 受講したい研修や講座



## 結論

本学に2004年に入学し、在学中保育の実習を経験し、卒業後は保育職に就いた学生（卒業生）を対象に幼児体育における運動遊びの指導に関する実態、ならびにその問題点などについて追跡調査を実施してきた。本研究では特に保育の中で関わった運動遊び、すなわち実習時、および卒業後に実施した運動遊びの内容や指導の得意・不得意さ、難しさなどの理由について分析を行った。その結果、以下の事柄が明らかとなった。

幼稚園、保育所実習時とも、鬼ごっこ指導が最も多かったが、保育者となってからは、鬼ごっこ、器械運動、リレーや競走、水遊び、ボール遊び、ゲームなど多くの種目が季節ごとに取り入れて指導しており、子どもの発達や教育的意義にふさわしい内容を幅広く取り入れていた。

実習時、指導の得意な理由では、経験、好き、得意など自己要因に関するものが多くかった。不得意の理由も、苦手や不得意など自己要因と、指導方法の未熟さによる自己要因も多く見られた。

実習時に指導が難しいとした理由には、指導技術が未熟という自己要因と子どもへの理解不足に起因する自己要因などが見られた。保育者になってから、器械運動やダンス系の指導が難しいという人が多いことから技能面、指導面での不安などがみられた。

実習時にダンスや表現遊びの指導をしたという学生は少なく、大半の学生は指導をしていなかった。その理由はその機会や時間がなかったという物理的要因で示されていた。実習中の指導は、リズムダンスやリズム体操のようなものがほとんどであった。保育者になってからも同様に、既成のダンス（お遊戯）やリズムダンスが多く表現の指導は少ないことがわかった。

保育者になって、運動遊びの指導は他の遊びに比べて取り組み易いとの回答が多いが、運動遊びの指導に対する不安は多くあった。

今後研修を受けたい運動遊びは、指導技術が必要なもの、運動技能が必要なものが多く、多くの種目の研修を希望しているので、今後の授業やリカレント教育に生かしていきたい。

## 引用文献

- 1) 宮下恭子、幼稚園・保育所における運動遊びとその指導に関する考察、—実習生の調査から— 東京成徳短期大学紀要第40号 2007 3
- 2) 村田芳子編著 楽しいリズムダンス・現代的なリズムのダンス 小学館 2002
- 3) 宮下恭子 保育専攻学生の表現・ダンスに対する意識とその学習における自己評価 東京成徳短期大学紀要第38号 2005 3 p. 79